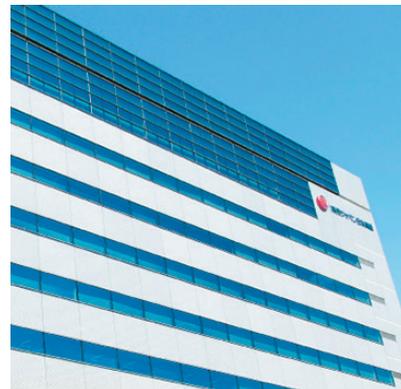


SOMPOシステムズ株式会社

SOMPO ホールディングスの戦略的 IT 企業である SOMPO システムズ株式会社では、基幹業務システムの一つとして保険代理店システム「SJNK-NET」を提供しています。同社では次世代の損保基幹システムを再構築する未来革新プロジェクトが進行、その本格的な開発着手を前に「SJNK-NET」基盤を迅速かつスムーズに変更する必要があります。 「SJNK-NET」は 35,000 を超える代理店が利用する重要なシステムで、2002 年のリリース以来、機能拡張や最適化など何度も大規模改修が行われてきました。当初より Micro Focus 製品を利用いただいており、今回の基盤移行では Visual COBOL を選択、2018 年のシステム更改に向け準備が進められています。



Overview

「保険の先へ、挑む。」をブランドスローガンに、より多くの顧客に「安心・安全・健康」に資する最高品質サービスを提供しているのが SOMPO ホールディングスです。この活動を SOMPO グループの戦略的 IT 企業として支えているのが SOMPO システムズ株式会社で、グループの展開する国内損保事業、国内生保事業、介護・ヘルスケア事業、海外保険事業という 4 つの事業分野において、ICT 技術を駆使しながら力強く支援しています。

2016 年 4 月からスタートした中期経営計画では、新経営基本方針“Our Way”を発表しました。同社はここで、SOMPO ホールディングス事業環境および IT 潮流が激しく変化する中にあってもそれに即応可能なゆるぎない理想を高く掲げ、常にクオリティの高い IT ソリューションと IT サービスを提供、顧客に最大の付加価値を提供することを明言しています。

Challenge

2000 年代に入ってから、同社は基幹業務でのプログラム利用を効率化するため、全社レベルで分散環境プラットフォームにおけるアプリケーション構築フレームワークを確立しました。プログラムを、フローコントロールロジック、プレゼンテーションロジック、ファサードビジネスロジック、ビジネスロジック、データアクセスロジックとレイヤーに分類、提供するチャンネルごとに、新規開発が必要なパート、守るべき資産として幅広く再利用するパートを区分しました。中でも重要なのがビジネスロジック部分です。ここでは、ホスト上で構築された検証済みの COBOL プログラムがオブジェクト化され、COBOL 再利用基盤として導入された Micro Focus Net Express により分散環境システム上でそのまま活用されてきました。

同社基幹システムの一つである保険代理店システム「SJNK-NET」でも部品化された COBOL プログラムを COM 化して利用しています。Windows OS ベースの Web アプリケーションシステムで、2002 年のリリース以来、機能拡張や最適化など何度も大規模改修が行われてきました。

「SJNK-NET」は、保険料計算、申込書作成、ダイレクト計上、事故報告、顧客管理、代理店掲示板など、代理店が業務を行うために必要な機能を備えた重要なシステムで、35,000 を超える保険代理店に提供されています。約款などの変更によりビジネスロジックは頻繁にアップデートが必要で、代理店チャンネルを担当するホストチームと分散環境チームが、密接に連携して COBOL プログラムをメンテナンスしています。

同社では、2015 年より次世代の損保基幹システムを再構築する未来革新プロジェクトが進行しています。これについて、SOMPO システムズ株式会社 IT システム本部 オンライン基盤グループ統括担当 部長 進藤誠氏は次のように語ります。

「このプロジェクトは、これまでのチャンネル別システム開発体制の全面統合を主たる目的としており、開発生産性向上や商品開発スピードアップ、コスト削減を狙っています。これに本格的に着手する前に立ち上げたのが『老朽化対応プロジェクト』で、現行システムのハードウェア、OS を始めとするソフトウェア環境を最新バージョンに移行するものです」

もちろん「SJNK-NET」も例外ではありません。セキュリティ強化上も重要な施策であるため、できるかぎり迅速かつスムーズな移行が目指されました。



At a Glance

- Industry**
IT サービス業
- Location**
本社：東京都立川市
- Challenge**
保険代理店システム「SJNK-NET」基盤移行
- Solution**
 + COBOL 再利用基盤として Micro Focus Visual COBOL を採用
 + COBOL を COM コンポーネントとして Web サーバーに実装
 + ホスト上ビジネスロジックの部品化・再利用による効率化
- Results**
 + 迅速かつスムーズな基盤移行を支援
 + 未来革新プロジェクト推進体制が整備

「OSをWindows Server 2012に上げるのが主たる作業ですが、これによって影響を受ける範囲は幅広く、ハードウェア、データベースなどいろいろな点に気を配らなければなりません。COBOL環境に関してはそうした心配が要らない、安定性の高いものを選びたく、Micro Focus Visual COBOLであれば、歴代のCOBOL規格に忠実に作られており、上位互換性も保証されているため、問題なく移行できるだろうと考えました」

SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部 オンライン基盤グループ統括担当
部長 進藤 誠氏

www.microfocus.co.jp

Solution

同社でのMicro FocusのCOBOL製品利用開始は1990年代にまでさかのぼります。「SJNK-NET」では2002年のリリース時よりMicro Focus Net Expressを活用いただいており、現在このツールはインフラとして定着しています。今回の「老朽化対応プロジェクト」では“アプリケーションに影響を及ぼさず、トラブル発生を最小限に抑えこむ”“インターフェイスを変えない”ことが優先とされました。そして、その観点からCOBOL再利用率として選択されたのが、Micro Focus Visual COBOLです。進藤氏は次のように語ります。

「OSをWindows Server 2012に上げるのが主たる作業ですが、これによって影響を受ける範囲は幅広く、ハードウェア、データベースなどいろいろな点に気を配らなければなりません。COBOL環境に関してはそうした心配が要らない、安定性の高いものを選びたく、Micro Focus Visual COBOLであれば、歴代のCOBOL規格に忠実に作られており、上位互換性も保証されているため、問題なく移行できるだろうと考えました」

同氏の発言どおり、Visual COBOLのCOBOLコンパイラーはNet Expressのコンパイラーからの高い上位互換性を持っており、ほとんどの既存アプリケーションは再コンパイルするだけで移行することが可能です。

「SJNK-NET」に長年携わってきたSOMPOシステムズ株式会社システム統括本部テクニカルグループテクニカルリーダー 小路智広氏は語ります。

「当社は早くからアプリケーション構築フレームワークを確立し、COBOLプログラムの部品化を推進してきました。Micro FocusのCOBOL製品は、COBOLプログラムのCOMコンポーネント化が容易にできますし、COBOL部品を集約したサーバーを構築し、保険料計算や保険商品の妥当性チェックなどの機能をWebサービスと

して様々なチャネルに展開することも可能です」

さらに小路氏は「SOAで仮想化技術やクラウドと組み合わせることで、必要に応じ自由にスケールアウトすることもできます。将来的に部品化したCOBOLプログラムをグループ企業やさらに外部に提供したいと構想したときにも、セキュアにインターフェイスを提供することができるので、そこにも期待を持ちました」と続けました。

Results

「SJNK-NET」でのMicro Focus Visual COBOL適用は2017年1月、既存プログラムをリコンパイルするところから始まります。同年3月にフィジビリティスタディへ移行、2018年のゴールデンウィークに本番稼働を予定しています。小路氏の見通しを次のように語ります。

「すでにリリースノートや変更差分には目を通しており、この分ならスムーズに移行できるだろうと確信しています。『老朽化対応プロジェクト』のバックエンド側は、同じインターフェイス、同じ品質を保っていただけることがとても重要で、Micro Focus Visual COBOLはその点を信頼しています」

「老朽化対応プロジェクト」では、サーバースペック向上によるシステムコスト最適化も見込まれています。また、その先ではアプリケーションのユーザビリティ向上やマルチデバイス対応も手がけるといい、保険代理店でのシステム操作性が大きく向上しそうです。

そして、今回の老朽化対応プロジェクトにより、未来革新プロジェクトへと駒を進める体制が整備されました。同社の目指す、より高い開発生産性で、よりスピーディーな商品提供を可能にするとともに、よりリニアなコスト構造の次世代の損保基幹システム構築がここから加速しようとしています。

ユーザープロフィール

SOMPOシステムズ株式会社

本社：東京都立川市

資本金：7,000万円

従業員数：1,466名(2016年9月現在)

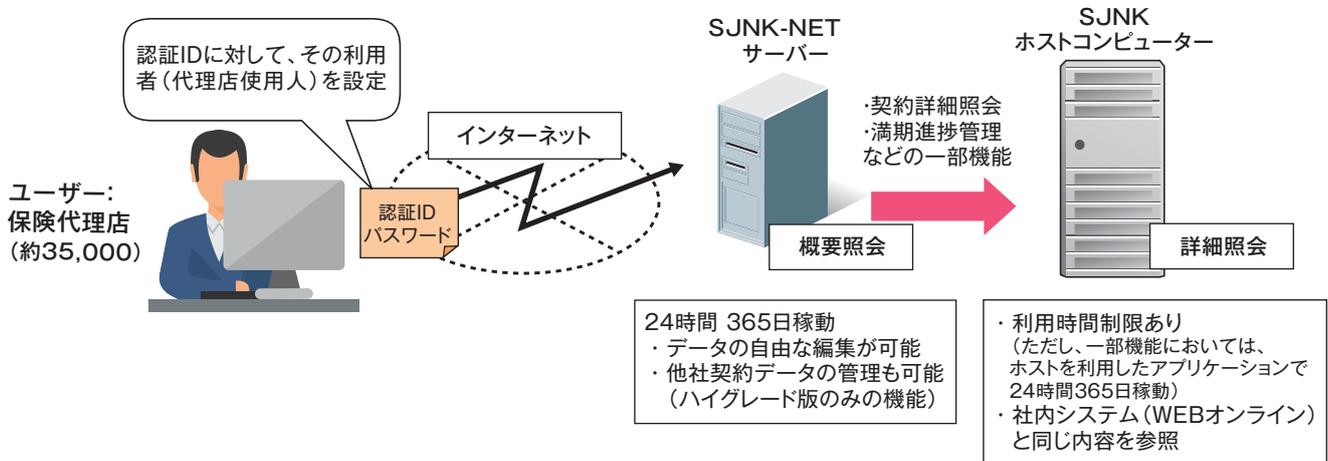
事業内容：コンピュータおよび関連機器による情報処理サービスの受託業務
ソフトウェアの開発受託および販売業務等

<http://www.sjnk-sys.com>

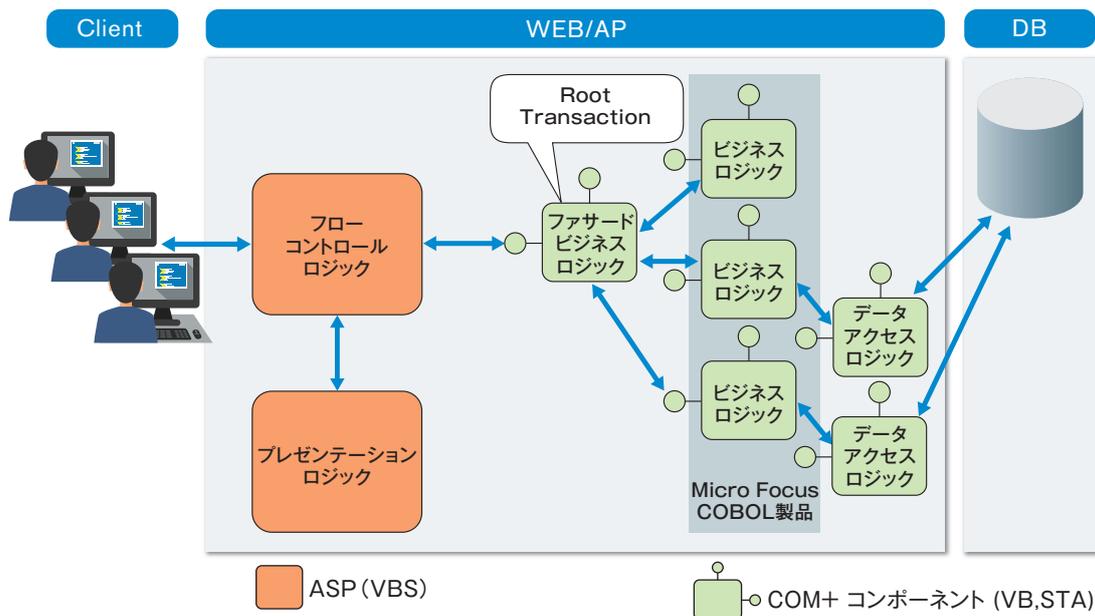
記載の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
本ユーザー事例の内容は、2016年10月に作成したものです。
MFJ660-1811-1MC | © 2018 Micro Focus. All rights reserved.

SJNK-NETの仕組み

SJNK-NETは、保険設計やダイレクト計上、事故報告など、各種機能の利用に必要なプログラムや契約データを、SJNK-NETサーバー上で利用するシステム。インターネットを経由してSJNK-NETサーバーへアクセスし、業務上のさまざまな処理を行う。



アプリケーションレイヤー構成



■フローコントロールロジック

- ・プレゼンテーションロジックの呼び出しとファサードビジネスロジックの呼び出しを制御することにより、オンライン業務の流れを制御するレイヤー
- ・プレゼンテーションロジックとは、セッションオブジェクトでデータの受け渡しをおこなう

■プレゼンテーションロジック

- ・ユーザーと対話形式で情報の入出力をおこなうための表示内容(画面)を構成するレイヤー

■ファサードビジネスロジック

- ・ビジネスロジックの呼び出しを制御するレイヤー。ビジネスロジックの呼び出しを全てこのレイヤーでおこなうことにより、リモート呼び出しを一本化する
- ・基本的にファサードビジネスロジックが、トランザクションルートとなる

■ビジネスロジック

- ・業務ロジックを搭載するレイヤー。フローコントロールロジック→ファサードビジネスロジックから引き渡されたデータを受け取り、処理結果をファサードビジネスロジック→フローコントロールロジックに返すレイヤー

■データアクセスロジック

- ・DB、ファイルなど永続記憶との入出力を司るレイヤー。データの所在やアクセス方法など永続記憶固有の入出力手順をこのレイヤーでビジネスロジックから隠蔽する